校友時報

平成2年3月7日
編集人兼発行人
秋田県能代市高塩2番1号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　㈱大勝堂印刷

21世紀にはばたけ

42期生、327名が卒業

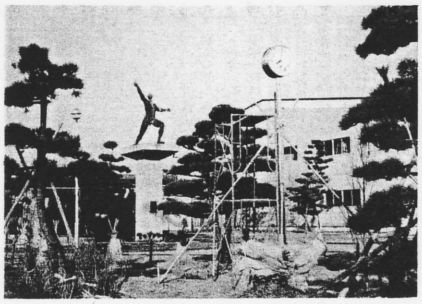
三十二名に皆勤賞

平成元年度卒業式が去三月七日に行われる。式には、卒業生のほか県教育委員会をはじめ来賓の方々、教職員、父兄、在校生らが出席する。

今日は三Gの加賀谷誠君が卒業生百二十七人の代表として、校長先生から卒業証書を受けとることとなっている。

また、今年は例年より多い三十二名に皆勤賞が授与される。代表者は三G森治君である。

受験のため式に出席できない者は三G森治君である。



……自在の像の前に設置されたソーラークロック

進路希望調査　2月8日現在（3年生 327名）

進学		
国公立大受験者	123名	284名
私立大受験者	135名	
短大受験者	9名	
専門学校受験者	17名	
就職		
公務員内定者	17名	46名
民間内定者	29名	

※就職進学者が3名いるので、進学・就職両方の集計に入っている。

2月14日現在

国公立内訳（推薦は含まず）	
1校出願	39名
2校出願	78名
3校出願	8名
※センター試験受験者	161名

昨年より狭き門
―高校入試

今年の県内の公立高校の学力検査は、あさって九日に行われる。

本校の倍率は一・一二倍と、昨年の一・〇五倍に比べやや難しくなった。

卒業生も数名いるが、三年前の入学式に参列した三百二十七名が全員そろって、今日本校を卒業することになる。

三百二十七名の卒業生の進路予定は左の表のようになっているが大学の合格発表が終了していないため、二月末の段階でまだ全員の進路は決定していない。

大学入試の難化が進んでいるが卒業生には最後までねばり強く努力してほしいところである。

今年の皆勤賞受賞者は次の人たちである。

（A組）菊池貴幸　佐藤雅人　鈴木幹雄　芳賀寿　市川みやこ　柴田美穂子　長岡朋子　（B組）金子誠　工藤元昭　小笠原人　三沢信　藤島貴久子　（C組）信太奈穂子　（D組）石山敬幸　平野真一　本間覚　大越咲樹子　大高和美　（E組）藤盛浩二　佐々木桐子　塚田しのぶ　（F組）小嶋雅人　渡辺将彦　石川豊子　岩根陽子　谷川原祥子　（G組）赤塚治中智　浜野隆司　坂倉州　加賀谷誠　近藤彰　田

論説
世界は動いている

今、世界に目を向けると見逃せないのがソ連や東欧社会の変化である。第二次世界大戦後、ベルリンを二つに分けていた〝ベルリンの壁〟が取り除かれたこと、またソ連でのペレストロイカに対する動き、ルーマニアの国情の変化。

これらのことを正確に論評するほどの知識は不十分だが、そこには何か内に秘めたエネルギーのようなものが感じられる。何の序論もなく結論を迎えたといった感じのベルリンの壁の崩壊だったが、テレビ中継を見ながら、歴史が転換するのを見届けたという思いが、ソ連や東欧社会の変化として、壁を通りぬける民衆のフィーバーぶりもわかる気がした。

そして、こうした改革が権力者の意図によるものではなく、長い時間をかけて民衆の間に醸成された熱い思いが底力となって達成されているように感じられた。

ドイツからルーマニアから、自由と民主主義を求める国民の意志は自然にわきたがり、それが各国へ波のように広がっている。

日本についても何か新しい動きが起こりはじめているように感じる。二月に行われた衆議院総選挙では、社会党の健闘も及ばず、自民党政権に変化はなかった。しかし国民の、この選挙に向けた思いには真剣なものがあったと思う。

「いいかげんな政治は許さない」というきびしい目が、日本の政治を正常にし、政治の古い体質を変えて行かなければいけないという意識が確実に根付きはじめているのではないだろうか。

そこには、与党と野党とが保守と革新との立場、主義のちがいを超えた、もっと真摯な、「正しいものを求める気持ち」があるように思う。以前までは政治には口を出さなかった女性や、国のやり方に従っていれば……と思っていた人たちが、自分でよく勉強したことを力に、発言したり行動したりしはじめているのではないだろうか。それが本当に、物を動かす力になるのだと思う。

学校だって同じだろう。先生方に「ああしなさい、こうしなさい」と指図されるのを待つばかりでは学習でもクラブ活動でも向上してはいかない。私達は「指示待ち世代」と評されることがある。どうすればこれから脱皮できるものなのか。少なくとも、周囲を見廻しているだけでは、何も変わっていかないことは確かであろう。（A）

校歌・応援歌集
同窓会が寄贈

今度、同窓会から在校生ならびに卒業生へ、校歌・応援歌集が寄贈されることになった。本校の応援歌の中には、四、五十年の歴史を持つものもあるが、現在歌われているものはほとんどが口伝えのため、長い年月の間に本来の曲や詞とは違ってきたものもある。そこで同窓会では「正確な歌を受け継いでほしい」ということから今回の歌集作成となったものである。

担当された音楽の中田先生にお話をうかがうと、「昭和三十年以前の応援歌にはほとんどわからなくなっているのもあって、それを掘り起こすために先輩の方々に聞いてまわったがやはり記憶がばらばらで、楽譜に取るのが大変だった。

今歌っている曲は不正確なので、今度テープに収録したから、しっかり覚えて堂々と歌ってほしい」と言われた。この歌集には校歌や応援歌など八曲が収められている。

平均点大幅に上がる
はじめてのセンター試験

さる一月十三、十四日の両日、昨年までの共通一次試験に代わる大学入試センター試験が実施され、本校生は秋田大学で受験した。

本校の三年生は、願書提出後に推薦入学が決まった人もおり、当初の予定より若干少ない百六十一人が受験した。

今年、全国では受験者数が四十万台を突破し、平均点も大幅に上昇した。この理由の一つは英語と数学の平均点の上昇で、英語は二十八点、数学は十九点というアップである。もう一つは、アラカルト方式を採用し大学が増え、不得意科目を受験しない受験生が増えたことである。数学Bを受験しなかったのは全体の十九%、四教科以下の受験者は全体の十三%で、昨年に比べ九%もアップしている。

なお、全国平均点は、某予備校の予測によると五百四十四点程度といわれており本校の平均点も昨年より上昇した。

このような平均点の大幅アップにより、合格可能ラインに達しなかったために他の大学に志願変更しようとしたが、変更できる大学が見あたらず、二次試験を断念せざるを得ない生徒もいた。

アラカルト方式の採用大学の受験に関しては、初めから三、四教科に受験科目を絞るのは志願変更を考えると危険である。そのため、国公立大希望者は五教科六科目をすべて準備するべきだという声が関係者からは聞かれた。

国公立の二次試験は、二月二十五日のA日程、前期日程から開始。三月五日からはB日程の試験が行われ、三月十二日からの後期日程の試験を残すのみとなっている。また、一部の公立大ではC日程で試験が実施される。

国際的な視野を
教育委員会祝辞

穏やかな日差しに新たな季節の到来を思わせる今日このころ、栄えある卒業式を迎えられた皆さんに心からお祝いを申し上げます。

かけがえのない青春の日々、自らを鍛えるために、今日までたゆまぬ努力を続けられたことを大いに称えるとともに、いつも皆さんの健やかな成長を願って、励まし導いてくられたご両親、諸先生、そして地域の方々に対して、深く感謝と敬意を表します。

今、社会は、技術革新をはじめ高度情報化、国際化などの進展に伴い、複雑に変化していく様相を呈しておりますが、皆さんはその時世の動向を的確に見極め、進取の気概をもって、個性豊かな若人として大きく飛躍していかなければなりません。

これからの道程には、ときにいろいろの苦難を伴うこともありましょう。自由に自らの人生を選択し、思いどおりに生きていくことは、そんなに生易しいことではないからです。しかし、苦しまた困難に遭遇したとき、それを乗りこえるために果敢に挑戦できるのが若者の特権であります。

試練が厳しいほど、それを克服したときの喜びも大きく、そうした体験こそが自己を形成するうえで貴重な糧となっていきます。そして、そうした試練を積んだ人ほど他人の立場をよく理解し、信頼と思いやりに満ちた平和な社会を築く担い手として大きく成長していくことができるのです。「人生に強いインタレストをもち感動する心なくしては、よき行動はなく、したがってよき人生もありえない」と先哲は私たちに示しました。

どうか皆さんは、高校時代に会得した豊かな素養を基盤とし、誇りをもち、次代の担い手として力強く生きていかれるものと確信しております。

前途が健康に恵まれ、幸多いものであることを祈念し、お祝いのことばとさせていただきます。

平成二年三月七日
秋田県教育委員会

トレパン・トレシャツ
新しいデザインに
新入学生から着用

新学期から本校の体育着のデザインが変更になる。

新しい体育着は濃紺を基調としており、肩やそで口、上衣の裾の部分に学年のカラーが配色されている。またスクールカラーのえんじも取り入れられている。生地の素材、衿の形などは従来のものとほとんど同じである。

すでに試作品が作られ、細部の検討を加えているが、「格好いい」という声から「今までの赤いのが好き」という声まで生徒の反応はさまざま。

本校では三年ごとに体操着の取扱い業者を変更する方針であるが今年はちょうどその年に当たっており、この機会にデザインも一新しようということになった。着用するのは四月に入学する新一年生からで、上級生はこれまでのものをそのまま用いる。値段は多少は高くついても、丈夫でセンスの良いものをという考えで、体育科の先生方が中心になって検討を進めてきたとのこと。

係の半田先生は、「総体などで他校と並んでみると、本校のえんじ色一色のトレパンはひとく貧弱に見え、地味であったので、前々から更新したいという意見は出ていた。すっきり着こなして、総体の行進なども美しく歩いてほしい」と話しておられた。

紺色にえんじを配す
新しいトレパン

加賀谷さん入賞
高校文化祭

この度、秋田県高校文化祭総合美術展の絵画部門で、本校二年C組加賀谷憂さんの作品「尾瀬」が入賞した。そこで、加賀谷さんに感想をきいてみた。

―入賞の知らせを聞いてどうでしたか。

何かの間違いだろうと本当にそう思いました。市内高校美術展で推薦を頂いた絵ではあったのですが、出品する時は、他の作品と並んでも見劣りしませんようにと祈ってました。

―普段から絵などには関心を持ってそうなのですが。

そうでもありません。

―将来の夢はやはり美術関係の仕事ですか。

何かを創ることが好きなので、そんな仕事ができたらと思っています。例えばデザインとか。夢とは大きいんですけどね。

―これからの目標は。

とりあえず力が伴うようコツコツと頑張ろうと思っています。

袴田さんが出場
国際親善弁論大会

二月二十四日、秋田市の県労働会館でNTT秋田主催の第一回国際親善弁論大会が開かれた。

この大会は外国人と二十一世紀を担う若者たちが弁論を通して交流する場を設けようと、初めて企画されたものである。県内在住外国人と高校生合わせて十八人が参加し、約二百五十人の聴衆を前に「国際人となるには」をテーマとした自分の主張を述べた。

本校からは二人の生徒が参加する予定だったが、一Fの伊東百代さんがかぜのため不参。一Cの袴田美由紀さん一人が参加した。

袴田さんは、「伊藤さんが出場できない分私ががんばらなくてはと思って緊張しましたが、私としては精いっぱいスピーチできたと思って満足しています。来年もまた参加したいと思います」と話してくれた。